## 14th IDBF 世界ドラゴンボート選手権大会 参加報告書

### 【全体総括】

JDBA 強化委員 榆木 栄次郎

2年前の昆明世界選手権の成績を参考に、複数種目でのグランドファイナル進出を目標にしていたが、結果、すべての種目でグランドファイナルへの進出はならなかった。過去最多の出場国、選手数となったこの大会では、前回の記録は参考にすらならず、世界の高い壁に跳ね返された。特に日本での開催種目の少ない長距離は、世界との差はさらに大きい。個人のストロークの深さ、強さ、スピード、チームの統一性、同調性、すべての項目で日本代表チームは改善の余地があると感じた。

しかしながら、選手強化の側面では多くの収穫もあった。今回初めて、代表権を獲得した チームに日本代表の強化指定選手が加わる形でプレミアオープン、プレミア混合に出場す ることができた。女子は主体のチームがないことから強化指定選手のみで編成した。また シニアにおいても、A登録しているチームから選抜するかたちで、従来のシニアAオープ ンスタンダードだけではなく、シニアA混合、シニアBオープンも初めての出場を果たし た。3月の選考会に始まり、各カテゴリーで4回以上にわたって主体チームをベースに強 化合宿を実施し、漕ぎ、戦略の統一、チームワークの醸成を図り、ほぼ計画通りに強化練 習を実施するでき、タイムとしては過去実績を大きく上回る成績を残せた。最下位の定位 置から、決勝進出を競えるくらいのレベルまで上がってきていることも事実で、発展途上 ではあるが、日本代表のレベルは着実に向上している。

一方反省点として、まずエントリー連絡の不備から多くのスクラッチ(棄権)種目を多数 出してしまったことがあげられる。本件の再発防止を徹底したい。また、シニアカテゴリーにおいては、代表権を獲得したチーム主体でチーム編成を行ったが、希望者がオープンに参加できる代表選考会が開催できなかったことや、明確な参加基準がない中で選考に至ったケースがあった。この件についても、公平・公正の観点から参加基準を見直していきたい。

数ヶ月に渡り、出場に向けて準備いただいた方々、応援していただいた方々へ感謝申し上げます。2年後の第15回世界選手権は香港での開催を予定されています。一つでも多くのグランドファイナル進出、メダルの獲得を目指して、今回の経験を活かして日本代表の強化を続けていく所存です。よろしくお願い致します。

全レース結果はこちらのサイトから参照ください。 https://idbfchamps.org/2019tha/mobile

bp 木村 航

<チームメンバー>

赤塚佳佑、稲岡愛夏、稲岡邦章、今出壮一、大谷樹、木村航、窪田一磨、清水真人、白神裕士、高橋雅彦、徳茂佳吾、鳥居孝吉、中村俊貴、康富一輝、吉中康 <当初の目標>

200 mのグランドファイナル進出、500 m・2000 mでのトップ 10入りを目指した。 <実際のタイムと順位>

200m:マイナーファイナル進出で49.3秒。19ヶ国中9位

500m:2分19秒で21ヶ国中17位、2000m:10分28秒19ヶ国中17位 <レースレビューと課題>

2000mはコーナーに対する戦術やそもそものレースプランに経験の浅さを露呈し、また体力・技術共に戦えるレベルに達していないこと強く感じた。インコースをとるための戦術やターンの漕ぎ方など、他国の映像を見て改善していきたいとおもう。

200mはレース経験も多く、スタートで戦える自信があった。それでも予選1本目で、ミドルはもちろんのことスタートでも前に出られなかった。敗者復活でなんとか勝ち上がり、準決勝では中国、インドネシアと共にレースをする機会をいただいた。スタートで出られ、ミドル〜終盤でさらに大きく引き離された。あとで映像を見返すと我々は強豪国と比較し、漕ぎが小さく、チームの動きもそろっていなかった。他国に影響され無理にピッチを上げていたのが原因の一つであったと考えられる。マイナー決勝では終盤に勝負をかけるために今自分たちができるピッチでレースプランを組んだ。その結果、50秒を切りなんとか1桁の順位に入ることができた。来年はグランドファイナル進出のために、フィジカルの最大化と中国に匹敵するようなスタートを身に付けていきたい。500mでは200mで上手くいった後半にかけて戦えるピッチで挑んだ。しかし、フィジカルの弱さが500mでは大きく影響し、トップ10入りは遠く及ばなかった。

#### 【総括】

世界選手権は最高峰のレースでありながら、最高のトレーニングであると感じた。5日間休みなく全力でレースに挑むことは相当な負荷であり、肉体的にとても成長することができた。また、試合する度に国内の試合では得られない気づきと経験を得ることができ、勝負ではあると同時に、大きく成長できた時間であった。もう一つ強く感じたのは体格の違いである。我々よりも一回りも二回りも大きい選手を隣に見ながら、日本人の体格がどれだけ小さいかを感じた。それでも同じアジア人である中国や台北は成績を収めているので、我々にもまだまだやりようがあり、やっていかなければならないと感じた。来年の目標に向けて日本選手団チーム一丸となってやっていきたい。最後になりましたが、私は初めての代表キャプテンを務めさせていただき、未熟物の私を何度も助けていただいたオープンのメンバーや日本選手団の皆様方には深く感謝いたします。ありがとうございました。

## 【プレミア女子スモール報告書】

日本女子代表選抜キャプテン 西村 まりな

JDBA強化委員会の新たな試みとして、3月に行われた女子強化指定選手追加選考およびトライアウトを経て、選抜された選手、以下14名で世界選手権、女子スモールカテゴリーに参加いたしました。

岩井康子【東京龍舟】布目裕子【東京龍舟】金子郁美【東京龍舟】沼澤ダフニィー【TEAM OOKKII】熊谷千草【東京龍舟】野世敦子【すいすい丸】汐江洋美【Super Dolphin】宮本芙美香【関西龍舟】篠原由佳【Super Dolphin】柳亜沙未【Super Dolphin】津川紗貴子【Super Dolphin】柳野紗智子【東京龍舟】西村まりな【漕遊人】渡邉真希子【東京龍舟】

5 チームから構成された JAPAN チームは計 4 回の強化合宿を行い、漕ぎの統一点の確認など 1 から【チーム作り】に励みました。【グランドファイナル進出】を目標に切磋琢磨し合い、メンバー 1 人 1 人が志高く強化合宿に取り組むことが出来ました。スモール女子カテゴリー参加国は 1 7 ヵ国。

世界的には競技者数が多いカテゴリーであり、普段交わることのない骨格の大きな代表選手と対戦できる貴重な大会でした。このような中、500mの部に関しては準決勝進出、マイナーファイナルへ進む結果となりました。グランドファイナルへは進めなかったものの、昨年度のアジア選手権で届かなかった香港や台北を抑え、勝ち進むことができたことはチームの自信と今後の可能性を感じさせられるものでした。

#### ●レース結果詳細

-2000 m -	-200m-	-500m-
1位 Thailand 9:57.551	1位 Thailand 52.105	1位 China 2:18.173
2位 China 10:01.849	2位 China 52.217	2位 Thailand 2:18.201
3位 Myanmar 10:13.352	3位 Singapore 55.464	3位 Indonesia 2:20.403
4位 Ukraine 10:30.784	4位 Australia 56.540	4位 Ukraine 2:25.770
5位 Philippines 10:32.140	5位 Philippines 56.540	5位 Germany 2:28.238
:	:	:
13 位 Japan 11:43.224	13 位 Japan 57.155	11位 Japan 2:32.880

2000mは漕ぎ手も含め回航練習をさらに積む必要があります。200m、500mのカテゴリーに関して、スタートから中間までは他国と並ぶレース展開を見せますが、徐々に艇速が伸びなくなる傾向にあります。理由として、中間以降ピッチは刻めてはいるものの水中スピードの減速とともにストロークも短くなっていることが大きな原因としてあげられます。インパクト強く、水中スピードが最後まで落ちることのない1パドルの質にこだわったパフォーマンスが今後求められると考えられます。

### 【総括】

トライアウトから選抜されたメンバー構成で挑んだ世界大会。メンバー内で一番大切にしてきたことは『チームの一体感』です。漕ぎ方も考え方も異なるメンバー同士が1つのチームを作り上げていく上で、合宿を通じ今まで信じてやってきたことを、全員が全員で一緒に一瞬で出すことに特化することができ、レース中でも2秒タイムをあげるなど、大会中にさらに結束力が増し成長していくチームでした。

最後に今大会の参戦にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様にお礼申し上げます。

2019 年 8 月 21~25 日の間、タイのパタヤにて開催されました第 14 回 IDBF 世界ドラゴンボート選手権大会にスタンダードプレミア混合艇として参加させて頂きました。参加にあたりましては、本大会にてチーフオフィシャルを務められた JDBA 国際委員の菖蒲様はじめ多くの皆様より多大なるご尽力を賜り、感謝申し上げます。

今大会は世界各地から延30カ国、4,000名におよぶ選手が参加し、過去最大規模の世界選手権となりました。Team JAPANとしても、13のチームから集まった96名での編成で、延7カテゴリーのクルーがエントリーし、全日程のレースに参戦するという過去最大の参加規模となりました。その内、本報告書では、スタンダードプレミア混合艇についてお伝えさせて頂きます。本クルーは、昨年の代表選考会結果として、東京龍舟が代表権を得たカテゴリーのものになります。クルー編成においては、東京龍舟が主体となりましたが、クルーとしてのベストパフォーマンスを追求した結果、他カテゴリーで参加する多くの他チームのメンバーにもご協力頂き、最終的には延8チーム30名での編成となりました。以下、ご確認の程、よろしくお願いいたします。

#### ●参加メンバー

- ・キャプテン:吉田太郎(東京龍舟)
- ・選手: 赤塚圭祐(bp)、石黒央大(関西龍舟)、稲岡邦章(bp)、今出壮一(bp)、岩井康子(東京龍舟)、緒方大輔(東京龍舟)、大谷樹(bp)、小野淳(東京龍舟) 金子郁美(東京龍舟)、木村航(bp)、窪田一磨(bp)、熊谷千草(東京龍舟)、近藤啓樹(東京龍舟)、汐江洋美(SUPER DOLPHIN)、清水真人(JNC 水俣)、諏訪有紀(東京龍舟)、土井幹太(東京龍舟)、徳茂佳吾(bp)、西村まりな(漕遊人)、沼澤ダフニィー(TEAM OOKKII)、野世敦子(すいすい丸)、野尻恵子(東京龍舟)、宮本芙美香(関西龍舟)、安田達也(東京龍舟)、康富一輝(bp)、柳野紗智子(東京龍舟)、山内裕子(東京龍舟)、林志堅(東京龍舟)、渡邉真希子(東京龍舟) 延30名

#### ●クルーメンバー・レース結果

●8/21(水):2,000m

### 【クルーメンバー】

・太鼓:野尻・舵:緒方・パドラー: 林、野世、今出、沼澤、土井、近藤、 岩井、清水、山内、渡邉 安田、吉田、諏訪、西村、康富、小野、金子、石黒、宮本、柳野

## 【レース結果】

- ·final(決勝)
- 1 着:8'26"000 United States
- 2 着:8'27"863 China
- 3 着:8'31"491 Indonesia
- 4 着:8'33"133 Canada
- 5 着:8'34"968 Ukraine
- 6 着:8'37"956 Thailand
- 7 着:8'40"078 Germany
- 8 着:8'54"451 Great Britain
- 9 着:8'56"772 Australia
- 10 着:8'59"931 Singapore
- 11 着:9'02"261 Macau
- 12 着:9'05"462 Philippines
- 13 着:9'10"660 Russia
- 14 着:9'20"953 Switzerland
- <u>15 着:9'26"3</u>62 Japan
- 16 着:9'29"861 New Zealand
- 17 着:9'54"722 Spain
- 18 着:10'20"459 India
- 19 着:10'48"718 Korea

#### ●8/22(木):1,000m

### 【クルーメンバー】

・太鼓:野尻・舵:緒方・パドラー: 林、野世、今出、沼澤、土井、近藤、 岩井、清水、山内、渡邉、大谷、汐江 安田、吉田、諏訪、西村、木村、小 野、金子、石黒、宮本、熊谷、窪田、

# 柳野

#### 【レース結果】

- •heat 3(予選3組)
- 1 着:4'00"182 Indonesia
- 2 着:4'04"937 United States
- 3 着:4'08"244 Germany
- 4 着:4'27"446 Switzerland

## 5 着:4'29"358 Japan

- →rep(敗者復活)へ
- •rep 1(敗者復活1組)
- 1 着:4'22"841 Macau
- 2 着:4'22"899 Singapore
- 3 着:4'22"918 Japan
- 4着:4'39"714 Spain
- 5 着:5'44"557 Korea
- →semi(準決勝)へ
- ·semi 1(準決勝 1 組)
- 1 着:4'03"116 Myanmar
- 2 着:4'03"851 China
- 3 着:4'08"101 Germany
- 4 着:4'13"182 Great Britain
- 5 着:4'24"045 Czech Republic
- 6 着:4'25"590 Japan
- →準決勝タイム 16/18 位、plate final

#### (C決勝)へ

- •plate final(C決勝)
- 1 着:4'18"557 New Zealand
- 2 着:4'21"116 Czech Republic
- 3 着:4'22"055 Macau
- 4 着:4'23"631 Japan
- 5 着:4'30"387 Sweden
- 6 着:4'32"836 Switzerland
- →全体順位 16/21 位、決勝タイム
- 15/21 位

### ※参考※

- ·minor final (B 決勝)
- 1 着:4'04"661 Ukraine
- 2 着:4'05"226 Germany
- 3 着:4'13"538 Australia
- 4 着:4'13"909 Great Britain
- 5 着:4'20"089 Singapore
- 6 着:4'23"978 Philippines
- •grand final(A決勝)

1 着:3'55"485 Indonesia

2 着:3'56"704 United States

3 着:3'57"608 Myanmar

4 着:3'57"833 China

5 着:3'59"656 Canada

6 着:4'05"434 Thailand

## ●8/23(金):500m

## 【クルーメンバー】

・太鼓:野尻・舵:緒方・パドラー: 林、野世、今出、沼澤、土井、近藤、 岩井、稲岡、山内、渡邉、清水、汐江 安田、吉田、諏訪、西村、木村、小 野、金子、石黒、宮本、熊谷、窪田、 柳野

#### 【レース結果】

·heat 3(予選3組)

1 着:2'04"156 United States

2 着:2'04"837 Macau

3 着:2'05"201 Japan

4 着:2'13"752 Russia

→semi(準決勝)へ

·semi 1(準決勝 1 組)

1 着:1'55"745 China

2 着:1'56"275 Canada

3 着:2'00"775 Singapore

4 着:2'02"022 New Zealand

5 着:2'04"135 Japan

6 着:2'12"695 Russia

→準決勝タイム 13/18 位、plate final

(C決勝)へ

•plate final(C決勝)

1 着:2'00"829 Japan

2 着:2'02"509 Macau

3 着:2'04"865 Switzerland

4 着:2'06"251 Hong Kong

5 着:2'08"395 Russia

6着:2'18"229 Korea

→全体順位 13/20 位、決勝タイム

10/20 位

※参考※

·minor final(B決勝)

1 着:1'57"449 Ukraine

2 着:2'00"446 Singapore

3 着:2'00"821 Australia

4 着:2'01"477 New Zealand

5 着:2'03"441 Philippines

6 着:2'03"672 Great Britain

•grand final (A 決勝)

1 着:1'51"380 Thailand

2 着:1'52"319 Indonesia

3 着:1'53"230 Canada

4 着:1'53"252 United States

5 着:1'53"300 China

6 着:1'57"651 Germany

#### ●8/24(土):200m

## 【クルーメンバー】

·太鼓:野尻 ·舵:緒方 ·パドラー: 林、野世、今出、岩井、土井、近藤、 汐江、清水、山内、渡邉、大谷 安田、吉田、諏訪、西村、徳茂、小 野、金子、石黒、宮本、熊谷、赤塚、 柳野

## 【レース結果】

·heat 3(予選3組)

1 着:45"936 Indonesia

2 着:46"015 Canada

3 着:47"330 Ukraine

4 着:48"209 Japan

5 着:51"604 Russia

→rep(敗者復活)へ

•rep 1(敗者復活 1 組)

1 着:49"485 Japan

2 着:49"752 New Zealand

3 着:51"977 Russia

4 着:54"531 Korea

→semi(準決勝)へ

·semi 2(準決勝 2 組)

1 着:44"660 Thailand

2 着:45"718 Canada

3 着:47"213 Macau

4 着:47"948 Singapore

5 着:48"540 Japan

6 着:52"603 Spain

→準決勝タイム 13/18 位、plate final

(C決勝)へ

•plate final(C決勝)

1 着:48"841 New Zealand

2 着:49"098 Japan

3 着:49"517 Great Britain

4 着:50"681 Hong Kong

5 着:53"040 Russia

6 着:53"222 Spain

→全体順位 14/19 位、決勝タイム

12/19 位

※参考※

·minor final (B 決勝)

1 着:47"517 Macau

2 着:47"578 Ukraine

3 着:47"707 Australia

4 着:48"184 Singapore

5 着:49"225 Philippines

6 着:49"556 Switzerland

·grand final(A決勝)

1 着:44"030 Thailand

2 着:44"609 Indonesia

3 着:44"731 China

4 着:45"297 Canada

5 着:45"806 United States

6 着:45"973 Germany

#### ●所感

クルーの目標としては当初 grand final 進出を目標としていましたが、初日 2,000m での自分達のポジショニングを踏まえ、minor final 進出に目標を切り替えて 1,000m 以降のレースには挑みました。ですが結果としては、1 つも minor final に進出することはできず、最もよい成績だったのは、500m での plate final 1 位でした。

grand, minor, plate のどの決勝に進出するかは、semi(準決勝)でのタイム順によるものでした。minor final 進出まで足りなかったタイムとしては、

1,000m→6"896[Philippines 4'18"694(12 位): Japan4'25"590(16 位)] 500m→0"005[Great Britain 2'04"130(12 位): Japan2'04"135(13 位)] 200m→0"196[Switzerland 48"344(12 位): Japan48"540(13 位)] という結果でした。

1,000m は大きな差がありましたが、500m はほんの僅か、そして 200m もあと一歩というところでした。今回のクルーは事前に全体で集まって練習をすることはなく、現地ではじめて集まってク

ルー作りを行うというスタイルとなりました。最初はクルーとして漕ぎのイメージの共有が十分にできていませんでしたが、レースを重ねる毎に精度を高め、個々のメンバーが持つ漕力が徐々に発揮され、クルーのパフォーマンスが高まっていきました。ですが上記の通り勝負所であと一歩の壁を乗り越えることができず、非常に悔しい思いをしました。レース戦略・レースプランはどうだったのか、キャプテンとしてもっとクルーの力を引き出す方法はなかったのか、また1パドラーとしてももっと高いパフォーマンスを発揮できなかったのか、など反省点はいろいろと挙げられます。

今後も Team JAPAN としてクルー編成を行う上で、今回のように様々なチームのメンバーが集まり、クルーを組むことは多々あると思います。

当然ですが、クルーとしての練習機会をできるだけ設けること、また練習機会を十分に設けられない場合でも、クルーとしての漕ぎのイメージ・レースプランなどの理解を事前にできるだけ深められるようにコミュニケーションを取りながら準備を行うことが必要だと感じました。そうすれば現地で本格的にクルーづくりを行うにしても、よりスムーズにクルーの精度を高めることができ、勝負所でよりよいパフォーマンスが発揮できると思われます。今回の貴重な経験を今後に活かしてまいります。

#### ◉総括

今回の世界選手権は、Team JAPAN として最大規模での参加であり、大きなチャレンジであったと言えます。そしてスタンダードプレミア混合艇も同様に大きなチャレンジに取り組み、結果としては悔しいものでしたが、日本のドラゴンボートにおける新たな第一歩を刻んだと思います。

今回最大規模の大会の中で自分達の立ち位置を把握できたこと、強豪国とのフィジカル面およびテクニック面での差が明確になったこと、そして我々には大きな可能性がありしっかりと準備をすれば世界と戦えると実感できたことは、大きな財産となりました。今回このようなチャレンジに参加させて頂けたことにとても感謝しております。

スモールプレミアオープンとスモールプレミア女子クルーの多くの皆様には、ダブルエントリーとなりながら、クルーに加わり共に戦って頂きました。現地では他クルーの皆様に我々がレースでよりよいパフォーマンスを発揮できるようにと手厚くサポートをして頂きました。

他にも大会参加にあたり事務的なサポートをして下さった皆様、クルーメンバーを応援して下さった家族や友人他皆様、そして日本で応援して下さっていたドラゴンボート関係者の皆様、たくさんの皆様の支えがあってはじめて今回のチャレンジが実現しました。

クルーー同、皆様に感謝すると共に、今回得た経験を今後の Team JAPAN の発展に繋げてまいります。皆様、本当に有り難うございました。

#### 【プレミア混合スモール報告書】

東京龍舟 小嶋 祐太

世界選手権 2019 プレミアスモール mixed 大会後記

タイ・パタヤにて開催されました世界選手権 プレミアスモール mix 艇では計 4 チーム 15 名のパドラーによる編成で試合に臨みました。世界大会出場にあたり、遠方より東京での合同練習にご参加頂きましたメンバー、また現地にて共に戦い抜いた東京龍舟、すいすい丸、Team MAX、SUPER DOLPHIN メンバーに改めて感謝申し上げます。出場カテゴリー: 2000m, 500m, 200m の 3 種目にエントリーし、挑んだ結果を下記にまとめ、大会後記と致します。

#### メンバー(敬称略):

桂大輔(東京龍舟)、小池邦夫(東京龍舟)、片桐隆(東京龍舟)、小嶋祐太(東京龍舟)、岩城耕一(すいすい丸)、原田宏典(すいすい丸)、塚田和範(Team MAX)、黒岩玲菜(東京龍舟)、北川由季(東京龍舟)、Kobernyk Nadiya(東京龍舟)、Lee Caroline Mikumo Meiyun(東京龍舟)、吉田裕美子(東京龍舟)、若狭秀(東京龍舟)、山野有梨(東京龍舟)、汐江洋美(SUPER DOLPHIN)

#### 【プレミアスモール mixed 各種目レース結果】

## 2000m (final) :

1<sup>st</sup> Italy 9:39:535

2<sup>nd</sup> Thailand 9:44.586

10<sup>th</sup> Philippines 10:10.010

11<sup>th</sup> Japan 11:35.625 →11/11 位

会場のコンディションはあまり大きな波のうねりは見受けられない中で乗艇しましたが、水上では横揺れを感じやすく困惑しました。しかしながら、クルーメンバーは即座に対応しレースに臨んでいたと思います。順位の変動があったのは直線 500m 手前、各国低ピッチながら 1 本 1 本深く大きなストロークで船を進め引き離されるシーンが目立ちました。ラスト 1500m を過ぎた辺りより疲労により漕ぎが小さくなり始めたが、クルー同士声を掛け合い、モチベーションを保ちつつゴールしたレース展開でした。

#### 500m (minor final):

1st Italy 2:18.062

4<sup>th</sup> Australia 2:27.003

5<sup>th</sup> Japan 2:35.670 →11/12 位

2000m と比較しミドルのピッチを上げ、隣のレーン Australia にどれだけ食らい付いていけるか。またスタートでそれだけ勝負できるかに賭けたレースの入りでした。結果スタートの飛び出しは成功したものの、ミドルにて差を広げられ、Australia と 13 秒差の(タイム: 2:43.5151) 本目となった。そこから 2 本、3 本と漕いでいく中、この艇における中距離漕のミドルピッチ・レース展開をはっきりと掴み、本番当日ながら 8 秒短縮する(タイム: 2:35:670) させ、最終日の 200m へ向けて更なる成長の兆しを感じつつ 500m の試合を終えました。

#### 200m (minor final):

1<sup>st</sup> Philippines 54.367

4<sup>th</sup> Sweden 56.503

5<sup>th</sup> Japan 1:00.084 →11/12 位

200m ではスタートの飛び出し+ミドルでの切り替えのスムーズさについて再考し、これまでの配艇の 見直しを行いました。結果、改めて他国とのパワー差を実感しつつも、small mix 艇として最大限の パフォーマンスを発揮し本大会を終えました。

#### 【総括·所感】

今大会にて、2000m、500m、200mと3カテゴリーに参加させて頂き、結果を素直に受け入れ、次大会までに更にタイムを縮めるべく尽力していきたい。全体的な課題としてフィジカル、また1ストロークにおける推進力が足りず、レース展開として大きな見せ場なく終えてしまったことに大きな反省が残る。また大会を通じ、特にプレミア世代に向けて一文残したい。国内大会と世界大会とでは得ることができる経験値として、大きな差があることを再認識した。これを是非多くの国内、特にプレミアドラゴンボーダーに共有したいと思う。この経験とは単に「大会参加」する意としてではなく、参加に至るまで、会期中、そして帰国後からの通常練習の一連のものである。

はじめに私の理想として、多くの JDBA 強化指定選手を含む「オールジャパン」としての世界大会 出場が第一にある。これは国内トップ層の選手でないと日本のドラゴンボートの競技力と世界とのレベル差を感じることができないからだ。本大会は前回大会と比べ、私の理想のそれと比較的近い。 故に今回は1チームに拘らず、多くのチームからの選抜チームとなった。これにより、各チームの 漕ぎは必然的に多様化し、強化指定選手から見聞きして学べる素材も得ることができる。更に、無 論大会参加によって世界トップのチームとレースをし、刺激を受け、研究材料を得ることができる。 帰国後を見ても、持ち帰ったものをトライしている選手も多い。 現在の漕ぎから新しいメソッドを導入し新しいものに進化させる、これこそがドラゴンにおける PDCA だと考える。 私個人としては、本大会にて今までの考えや漕ぎを抜本的に見直すとても有り難い二度とない機会を頂いたと感じた。 これらは私一個人としての所感であるが、是非ともプレミア世代のドラゴンボーダーも多く世界選手権に参加し、刺激を受けて頂きたい。今大会ではシニア漕手の活躍が目立ったが、2021 年次回大会@香港ではプレミア世代多くの出場、また出場カテゴリーの追加(プレミアスタンダードオープン艇など)を目標にしていくことで、国内ドラゴンボート全体が更に盛り上がることを期待する。

シニア A オープンのキャプテンを務めさせていただいた東京龍舟の若狭と申します。表彰 台というチームの目標を達成する為に、シニア合宿では練習の質を高めて取り組んできました。その結果日本代表としての自覚や誇りを持ってレースに臨むことができたと思います。チーム内ではコミュニケーションをできるだけ多くとり、チームを一つにして最低でもファイナル進出ができるように頑張ってきました。このチームは、すいすい丸、Bon Oyage、TAITAM X DRAGONS、東京龍舟の混成チームです。一人一人が練習してきた環境が違って、性格も容姿、体格も違います。その全てが違うクルーを短い時間でまとめるのが自分の最大の仕事でした。さらにその違った個性を伸ばして漕がせてあげるのも大切な役割でした。今後必要なのは、心・技・体の中で体だと思います。更にパワーをつけてスタミナもある体。この体の部分が課題です。Day 4 (200m) の semi 1 でのレースでは、ピッチをスタート 100 のミドル 90 で臨みましたが後半少しばらつき残念ながらファイナル進出なりませんでした。最後に、これから自分たちが自分たちのやるべきことをしっかりやれば必ず勝ち進めると思います。そして、皆様に笑顔や元気を与えられるようにシニアAオープンクルーは、それぞれのチームに戻り頑張っていきます。熱い応援これからもよろしくお願い申し上げます。

#### <参加メンバー>

太鼓:野尻恵子(東京龍舟)舵:緒方大輔(東京龍舟)

池川忠行 (BON OYAGE) 井上義章 (東京龍舟) 今川昇 (すいすい丸) 岩城耕一 (すいすい丸) 内田圭 (東京龍舟) 尾寅慎介 (東京龍舟) 小池邦夫 (東京龍舟) 島本潤 (TAITAM X DRAGONS) セルゲイ ミハイレンコ (東京龍舟) 竹谷銀一郎 (東京龍舟) 塚原博幸 (東京龍舟) 中井康児 (BON OYAGE) 中村公一 (東京龍舟) 楡木栄次郎 (東京龍舟) 早島靖典 (東京龍舟) 原田宏典 (すいすい丸) 藤ノ井竜也 (すいすい丸) 古嶋秀郎 (東京龍舟) 松木慎吾 (BON OYAGE) 森井信吉 (BON OYAGE) 山本光顕 (東京龍舟) 湯本幸一 (すいすい丸) 横山禎 (東京龍舟) 若狭和也 (東京龍舟) 渡辺英樹 (BON OYAGE)

#### <結果>

## Day1 (2 k m) 21Aug 2019

- 1、Canada 8. 28. 370
- 2, United States 8.40.900
- 3, Thailand 8.41.000
- 4, Hong Kong 9.02.750

- 5, Philippines 9.11.600
- 6, Japan 9. 19. 350
- 7, Singapore 10.08.780

## Day2 (1000m) 22Aug 2019

heat 1

- 1, Germany 4.07.265
- 2, Australia 4.08.713
- 3, Philippines 4.09.514
- 4, United States 4.13.737

#### 5, Japan 4.26.906

minor final

- 1, Hong Kong 4.19.589
- 2, Japan 4.24.269
- 3, Singapore 4.29.830

### Day4 (200m) 22Aug 2019

heat 1

- 1, Canada 44.519
- 2, Thailand 44.667
- 3, Hong Kong 47.249
- 4, Japan 48.149

#### semi 1

- 1, Thailand 45.801
- 2, Hong Kong 46.231
- 3, Germany 46.753
- 4、Philippines 46.878
- 5, Japan 47.482
- 6, Singapore 49.050

minor final

- 1, Philippines 46.868
- 2, Japan 47.252
- 3, Singapore 47.863

### Day5 (500m) 22Aug 2019

heat 1

- 1, Canada 1.56.426
- 2, Philippines 2.03.188
- 3, Hong Kong 2.06.055

#### 4, Japan 2.06.840

#### semi 1

- 1, United States 1.57.216
- 2, Philippines 1.59.770
- 3, Germany 2.00.007
- 4、Hong Kong 2.00.199

#### 5, Japan 2.02.872

6, Singapore 2.07.983

minor final

- 1, Hong Kong 2.01.411
- 2, Japan 2.04.232
- 3, Singapore 2.06.978

#### 【シニアA混合スタンダード報告書】

東京龍舟 楡木 栄次郎

#### <参加メンバー>

選手:池川麻美(ボンオヤージ)、飯盛知美(ボンオヤージ)、石原佐江子(ボンオヤージ)、井上義章(東京龍舟)、内田圭(東京龍舟)、江口由利子(ボンオヤージ)、緒方大輔(東京龍舟)、尾寅慎介(東京龍舟)、北川由季(東京龍舟)、黒岩玲菜(東京龍舟)、近藤繁(東京龍舟)、坂本万美(東京龍舟)、セルゲイ・ミハイレンコ(東京龍舟)、高野浩代(東京龍舟)、竹谷銀一郎(東京龍舟)、塚原博幸(東京龍舟)、中村公一(東京龍舟)、並松理恵(東京龍舟)、楡木 栄次郎(東京龍舟)、疋田真理(東京龍舟)、古澤比奈子(東京龍舟)、マエバ・ブレア(東京龍舟)、山岸輝美(東京龍舟)、山本光顕(東京龍舟)、吉田裕美子(東京龍舟)、渡辺英樹(ボンオヤージ)

#### <所感>

目標としていたグランドファイナルへの進出はかないませんでした。グランドファイナルまで 500M で 6 秒、200M で 1 秒 5 の差があり、現時点では埋めがたい大きな差がありました。準決勝で目標通りのトップ6のタイムを出したが、出場チームが全8チームということでトップ5チームのみがグランドファイナル進出で、残念ながらマイナーファイナルへの進出でした。決勝進出チームとはストロークの深さ、長さ、速さ、同調性の全ての面で差がありました。チームには僅差ながら、いつも決勝で惜敗し、悔しい思いをしました。

3月から選手選抜を行い、世界選手権までに計 4回の強化合宿を行い、今回参加したメンバーの持っている力は全て発揮できたとは思います。距離に応じたレースプラン通りで漕ぎきり、想定していた通りのタイムではあったが、他国のパフォーマンスは、それをはるかに上回るものでした。上記タイムを見ても分かるように、距離が長くなればなるほど、他国との差は大きく、1ストロークで進む距離を伸ばさない限り、この差は埋まらない。日本国内のレースも250Mが中心であるために、中・長距離を想定した練習も不十分になりがち。今後は500Mを中心において強化をしていきたい。またチーム編成においては、公平性を考え、全国から希望者を公募して選考会を行い、代表権を持っているチームに合流する形で編成するようにしていきたい。

参加されたメンバーの皆様お疲れ様でした。次回こそはグランドファイナルいきましょう!

レース結果(Grand Final/Minor Finalのみ)

#### 2000M

1. 8:45.012 Canada

6. 9:15.563 Italy

2. 8:48.857 United States

7. 10:07.012 Japan

3. 8:52.930 Germany

8. 10:15.955 Thailand

4. 8:55.580 Ukraine

5. 9:00.636 Australia

#### 1000M 500M 200M Grand Final Grand Final Grand Final 4:07.374 Canada 1:57.535 Canada 1. 1. 46.134 Canada 2. 47.214 United States 4:11.117 Germany 2:00.666 United States 3. 4:11.552 United States 3. 2:01.606 Germany 3. 47.764 Germany 4:15.524 Australia 4. 2:01.739 Australia 4. 47.921 Australia 5. 4:17.172 Ukraine 5. 2:01.865 Ukraine 5. 48.929 Ukraine Minor Final 6. 4:29.685 Italy Minor Final Minor Final 2:11.213 Hong Kong 51.456 Hong Kong 6. 4:38.011 Hong Kong 7. 2:11.576 Japan 7. 51.611 Japan 2:19.067 Thailand 4:41.675 Japan 8. 8. 55.906 Thailand 9. 4:55.571 Thailand

東京龍舟 幾石 純

#### <チームメンバー>

吉田ゆ(太鼓) (東京龍舟)、近藤(東京龍舟)、幾石(東京龍舟)、有坂 (東海龍舟)、岩附 (東京龍舟 タイ在)、真木 (東京龍舟)、染川 (東京龍舟 ヴェトナム在)、江端 (琵琶湖ドラゴンボート ) 畑 (琵琶湖ドラゴンボート 中国 広州在)、石井 (東京龍舟)、熊谷 (東京龍舟)、並松(舵) (東京龍舟)

#### <当初の目標と実際の戦績>

世界大会初のシニア B クラスでの参加で、ピッチ合わせを最後までしっかりと行い、最下位にならないように漕ぎ切ることを目標としてきました。しかし残念ながらほぼその通りの結果となってしまいました。特に後半にスタミナ切れで失速し、海外勢のパワーとスタミナに完敗でした。

## <\*タイムと順位>

#### レースレビューと課題

<u>500M</u>	<u>200M</u>
Grand Final	Grand Final
1. 2:15.536 Australia	1. 51.799 Australia
2. 2:16.422 Russia	2. 52.710 Russia
3. 2:16.917 New Zealand	3. 53.552 Hong Kong
4. 2:17.396 Italy	4. 53.682 New Zealand
5. 2:20.689 Germany	5. 53.720 Germany
6. 2:20.758 Hong Kong	6. 54.594 Italy
Minor Final	Minor Final
7. 2:23.228 Sweden	7. 55.659 Hungary
8. 2:23.761 Hungary	8. 56.431 Sweden
9. 2:26.874 Singapore	9. 57.394 Singapore
10. 2:42.635 Japan	10. 59.057 Japan

- 1、直前でメンバー変更があり、全員が一緒に漕ぐ機会を設けるのが難しいメンバー構成ではあったが(広州、ベトナム、タイからの参加メンバーあり)、長年のドラゴンボート経験、特に海外大会の経験がそれをカバーしました。各レースの終了後に反省と修正をキッチリと行い問題点をかなりカバーできました。
- 2、特に後半の失速が、早いピッチによる全員の合わせがうまく行かなかったため、しっかり漕ぎ切れなかったことによるものと反省、特に500Mではピッチ90で20ストローク、80で10ストローク、その後最後まで70で漕ぎ切ることで三回のトライアルで2回目以降6秒、1秒それぞれ縮めることが

できました。

3、当初、スタートの柵に龍頭を入れる作業に舵と後ろのパドラーの呼吸が合わなかったのですが、 回が進むにつれて、パドラーの操作向上もあり、対応することができました。

4、シニア B メンバーと言っても年来が50歳後半から70歳を越したメンバーでのチーム編成で、またリザーブなしの背水の陣で、実質シニア C のクラスのメンバーも多数おり、チームメンバーの確保、合同練習の確保、冬場の練習量の不足等が図らずもレース後半でのスタミナ不足を露呈してしまいました。

### 【総括】

上記の反省点から

- 1、早い段階でメンバーの確定すること
- 2、スタミナと筋力と技術の向上を目指し合同練習やコーチングを受けること
- 3、できれば、シニア B でも500M をしっかり漕ぎ切るために、日頃の練習で500-1000m の距離を相当なピッチで漕ぎ切ることが望まれます。